

令和5年度 墨田区立第一寺島小学校 経営報告書

校長名 森 村 聡 彦

学 校 目 標	人間尊重の精神を基盤として、心身ともに健康で、自主性、協調性、実践力に富んだ子供を育成する。 ○進んで学習する子○思いやりのある子○からだを大切にする子
目 指 す 学 校 像	新たなことに挑戦する生き生きとした魅力的な学校
目 指 す 子 供 像	主体的な挑戦力と突破力をもった子供
目 指 す 教 師 像	前向きで使命感に満ち、生き生きとした教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況 (A B C D)

項目	取組目標	自己評価		○分析 ・改善方策	学校関係者評価	
		達成状況			自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	確かな学力を全てのの子供に着実に身に付けさせる	全校13学級による静寂の中での朝読書実施状況 ③95%以上	区学力状況調査【国語・知識技能】の全国平均値との差 ④ 実施5学年全てが上回る	○週3日の全校朝読書活動などの、基礎学力と言語活動の充実した取組の成果が現れている。 ・帰宅後も読書を習慣付けるなど、継続して全ての教科の基礎となる読解力を育む取組を工夫し実施する。	A 9 B 1 C D	A 4 B 1 C D
	社会的自立に向けた進路指導・自ら学ぶ姿勢の伸長	工夫された教材教具の使用状況 ④ 100%	年度末児童自己評価(i チェック)での自己肯定感 ③ 80%以上	○子供の自主性や自発性を育成する指導に注力するとともに、キャリアアップタイムを、年間17時間実施した。 ・様々な機会をとらえて、自ら学び続け上級学校へ進学することの意義を児童に理解させる。	A 7 B 3 C D	A 5 B C D
	教員の指導力・授業力向上のための取組	授業での活用状況 ③50%以上	教員が自信をもって ICT 機器を活用する割合 ④ 90%以上	○全授業時間でタブレットを効果的に使用した。 ・従来のノート指導のよさを生かしながら、積極的に ICT 機器を授業で活用していく。 ・情報モラルの確立を徹底させ、新時代にタブレット端末を使いこなせる人材を育てていく。	A 7 B 3 C D	A 5 B C D
	個に応じた指導の工夫	授業での実施状況 ③85%以上	区学力状況調査でのC、D層の分布状況 ④15%以下	○習熟度別少人数指導の効果的な実施ができた。 ・最後まで課題に向き合い、正しい解答を導く過程を大切にする態度を養う。 ・タブレット端末を活用し、各教科で習熟度に応じた課題を個別に与える。	A 8 B 2 C D	A 3 B 1 C D
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	現在は新聞をとる家庭が減ってきているなど、子供たちの生活から活字が消えてきている。さらにタブレットの活用が増えていくと、児童の識字能力が落ちることが心配である。是非、今後も読書活動を続けていって欲しい。 タブレットを使用しての授業もよいが、漢字を正しく書くことを指導して欲しい。きれいな字はカッコいいということ伝えて欲しい。 タブレットの良さにデータの蓄積がある。ぜひ地域コンテンツを充実させ、児童に地域のことを学ばせて欲しい。				

様式 4

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	特別な支援を要する子供への組織的な対応	初動対応に要する日数 ④ 即日対応	解決に要した日数 ③ 翌日解決	○Teams を活用して、教職員間の即時情報共有と迅速な対応を行えた。 ・成功した対応例を教職員間で共有する研修を実施し、新たな課題に即応できる体制を構築する。	A 8 B 1 C D	A 6 B C D
	不登校の予防と解決に向けた取組	家庭との連絡状況 ④ 毎日1回	不登校の出現数 ① 2名以上	○全教職員の共通理解のもと、機動的に対応し、担任を支援した。 ・コロナ禍は明けたが、様々な理由によって不登校児童は増加傾向である。引き続き積極的に外部機関との連携を図り、短期解決に向け尽力していく。	A 7 B 2 C D	A 6 B C D
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	不登校の原因は本人、家庭、学校等、様々であり、いろいろなことが考えられる。登校できない間の勉強等、学校がフォローして欲しい。 登校できない理由は、一人一人異なる。そのため、不登校等の児童に丁寧に対応をして欲しい。 いろいろと問題を起こすこともあると思うが、地域や学校、保護者同士で排除ではなくみんなで育てることを第一に考えて欲しい。				

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	使命感に満ち、生き生きとした教職員集団の実現	相談・報告・声掛けの状況 ④ 毎日1回	ストレスチェック指数 ④67(R4の基準以上)	○働き方改革実行に強い決意をもって積極的に推進した。 ○担任への支援や、上司・同僚の支援を促進した。 ・慣例や漫然と行っている行事や報告書作成などは、英断をもって廃止していき、仕事の総量を削減する。	A 8 B 1 C D	A 6 B C D
	教職員のライフワークバランスの支援	平均残業時間の削減 ④ 平均30分短縮	平均年休取得日数 ③18日以上	・年次有給休暇の取得を奨励する。 ・各種特別休暇の周知を図り、取得促進に結び付ける。 ・一層の業務の精選と削減に、不退職の決意で取り組む。	A 8 B 1 C D	A 6 B C D
	服務事故未然防止の取組	注意喚起、服務事故防止指導 ③ 2週に1回	服務事故件数 ④ 0件	○体罰や不適切な指導を根絶した。 ○適切に文書を管理し、確実な保管を徹底した。 ・適時、服務事故事例を例示して、教職員への注意喚起を継続していく。	A 8 B 1 C D	A 5 B C D
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	先生方が子供をとともよく見てくれている。卒業生が遊びにきて担任がいなくても、他の先生がたくさん声をかけてくれていた。そのことから、児童は安心して登校ができていると感じる。				

様式 4

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	教育方針や教育活動の様子を分かりやすく伝える取組	ホームページ定期更新 ③ 毎月2回以上	学校評価満足度 ④ 90%以上	○学校だよりの月1回発行の他、適宜ホームページの情報を更新した。 ○一斉メールを積極的に活用して、適時性のある情報を広報周知した。 ・情報機器による広報の他、学校行事や授業公開などの機会を増やし、実際に保護者や地域に児童の様子や教育活動を目にしてもらう。	A 10 B C D	A 6 B C D
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の取組	左記の活動頻度 ③ 毎月1回	学校評価満足度 ④ 90%以上	○年間2回2週間ずつの「家庭学習パワーアップ週間」で学習習慣を確立した。 ○墨田中学校や墨田川高校との交流活動、子供まつりを PTA と共催で実施した。 ○地域町会と共同で防災訓練を行った。	A 8 B 1 C D	A 6 B C D
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	ホームページの更新がよくできている。ホームページ更新作業などの事務的なものは、得意な人に負担がかかりやすい。担当だけに頼るのではなく、だれにでもできるように引継をしていって欲しい。人が変わったらできないではなく、人がかわっても同じようにできるようにしていって欲しい。				

2 令和5年度学校評価のまとめ

アンケートの回収率は 72%と低い結果であり、昨年度よりも約 10%も回収率が低下してしまった。何度か各家庭に呼びかけはしたが、効果を上げられず、来年度は 80%以上の回収ができるよう、各家庭へ一層の働きかけをしていく。

昨年同様に学校に関しての項目では、高く肯定的な評価を得ることができた。児童の生活に関わる「挨拶」「十分な睡眠」「家庭学習」「読書（家庭）」「SNS に関して」「ゲームや TV 時間」等については、肯定的な意見が低くなる傾向がある。今後もより一層、家庭と連携して課題解決に向けて取り組んでいく。

自由記述には、学校行事等のことについてもたくさんのご意見をいただいた。真摯に受け止め、よりよい改善をすすめていきたい。今後も、地域・家庭・学校が連携をして、よりよい教育活動をすすめていけるようにする。

以上の通り報告いたします。